

二学期の始業式は8月28日（月）でした。

みなさん、おはようございます。二学期のスタートに当たって皆さんに期待していることを、2つに絞って言いたいと思います。

1つめ。「自分の力や『頑張ろう』と思う気持ちで取り組めることには、たとえそれが自分が望まないもの、誰かから、何かから、『やれ』と言われたこと、自分の意志に関係なく既に決まっていたものであっても、前向きに取り組んでほしいです。

世の中、自分の力や意思で何とかなることばかりではありません。例えば天候。去年のこの式は、大雨のため百人もの皆さんが参加できませんでした。今年は9月7日に予定されている自彊祭体育の部ですが、去年も一昨年も天気の関係で一日順延せざるを得ませんでした。近年日本各地で多発している大災害を挙げるまでもなく、本校の身近な例を見るだけでも、自然の大きな力に比べ、人間の力がちっぽけなことは明らかです。ましてや高校生である皆さんの力や思いで何とかなることは限られています。

それを分かった上で「せめて自分の力や思いが通じることには一所懸命に励もう」というのが、本校の校是「自彊」の姿勢の表れの一つだと私は思います。各教科の授業、自彊祭から津商モールへと続くレインボー・プロジェクトの山場となる学校行事、部活動など、一年で最も長い二学期には、大小様々な「一人一人の生徒の力や思いが通じること」が用意されています。ぜひ前向きに取り組んで、達成感や充実感を感じる中で、自分の手で自分自身を成長させてください。

2つ目。「百聞は一見に如かず」の姿勢で学んでください。先生の話聞いて覚えるのではなく、自分の目で見て自分の頭と体を動かすことが本当の学びに通じることを見直し、二学期の学習に向かってください。

「津商生は地元のアイドル。地域に愛され、応援されている！」私が初めて校長として生徒にした話の中で言った内容です。それをライブで聞いた生徒は皆卒業して、ここにはいません。が、ほぼ同じ内容を、8月始めに本校を会場に行った一泊二日の生徒研修に参加して、津山市内をフィールドワークした3年生の人達の口から聞くことができました。初めてたずねたお店のオーナーが本校の卒業生でとても親切に対応してくれたり、「津商のファンだよ」と声をかけてくれたり、お茶を無料で飲ませてくれたり…と、「どれだけ津商が愛されているかが分かりました」と話してくれる人達の顔は、津商生であることの誇りと自信に満ちあふれていました。先生に教えてもらったのではなく、自分の足で歩いて地域の方と交流したからこそ得られた気持ちであり、立派な学習です。そんな津商生に立ち会えて、私は暑さもぶっ飛ばすほど嬉しかったです。

暦の上では秋ですが、「残暑」と呼べないほどの猛烈な暑さが当分は続きます。体調管理に気を付けながら、課題考査や授業での学びそして自彊祭を、「自分の力や思いが通じるように」「百聞は一見に如かず」をモットーにして、取り組んでください。以上で式辞とします。

本当は夏休み中の様々な出来事や、そこで感じた諸々をもっと語りたかったのですが、朝から日差しが照りつけ暑さが募る中、始業式後に表彰伝達や壮行式その他の行事が予定されていたので、「これだけは!!」という2つに絞って話しました。校是「自彊」の精神のもと、「地元のアイドル」たる津商生の皆は、私の願いを十分くみ取ってくれたと信じます。



その後、全商の珠算・電卓の全国大会で団体・個人ともに第3位という岡山県初の素晴らしい成績を上げた珠算部の人達への表彰伝達式がありました。さらに9月3日に東京で開催される各地区選抜校のみが出場できる全国競技会に出場する珠算部と、幼少時から銃剣道に12年間取り組み、目標だった国体（愛媛県で10月7・8日に開催）出場を果たした3年の稲見将太君を激励する壮行式も行われ「この夏の生徒達の頑張り」の一端を全校で顕彰できました。

私が直接遭遇した「この夏の生徒達の頑張り」には、式辞で紹介した宿泊研修と、四校連携講座2日目～5日目の活動があります。



宿泊研修は、8月4・5日に本校の他に、岡山東商・岡山南・岡山後楽館・倉敷商業・玉島商業の各校から集まった総勢20名の高校生による、津山フィールドワークを題材とするポスターセッションと観光ビジネスプランのプレゼンテーションの研修でした。本校生徒は津山市内の城東・城西の2地区を、案内役をしながらフィールドワークしました。始業式で紹介したのは、城東地区を回った生徒達から聞いた言葉です。「津商生としての誇りと自信」に溢れた彼らが作成したプレゼンは、「津山愛」に満ちたステキな発表でした。

各校はこの研修での学びを元に、改めて各々の地元を題材に観光ビジネスプランを創ります。そして10月31日にコンペを行い、優れた作品を創った3校には東京のアンテナショップでプレゼンしてもらうことも決まっています。本校の諸君には今回のプランをさらにブラッシュアップさせ、ぜひとも東京に行き、「津山愛」を発信してほしいです!!



四校連携講座は、第4号で紹介した6月25日の第1日目を受けて、8月2日から5日まで4日間連続で開講しました。ほぼ一ヶ月ぶりの講座再開で、はじめは堅さが感じられた受講生達。しかし観光、産業、医療・福祉、教育・文化の「戦略」グループ毎の活動が始まると、すぐに打ち解けて、意欲的になりました。



文化の「戦略」グループ毎の活動が始まると、すぐに打ち解けて、意欲的になりました。

←フィールドワーク・出張講義の様子

4日間のメニューの概要は

- ・ 2日の午前・午後、3日の午前→「戦略」グループでのフィールドワークや出張講義の受講 ↓「戦略」グループのプレゼン
- ・ 3日の午後→「戦略」グループ毎のプレゼン
- ・ 4日→3つの「ドラマ創作」グループに分かれて、ディスカッションドラマの創作→中間発表1
- ・ 5日午前→ドラマ創作→中間発表2
- ・ 5日午後→リハーサル→ディスカッションドラマ上演→講座全体の振り返り

上演された3本のドラマは、どれも予想をはるかに超えた出来で、「観客」を惹きつける面白さを持ちつつ地域の課題について真摯に向き合ったことが伝わってくるものでした。受講生達の意欲と地元講師の方々の御協力、四校の先生達の尽力、そして、初日の平田先生の御指導を肉付けする形で、5日間に亘って演劇のプロとしてすばらしい指導をしてくださった、西村和宏先生、菅原直樹先生と三好真理先生のおかげです。

上演したドラマの様子は、9月6日(水)に本校で行われる自彊祭文化の部で、映像として上演します。よろしければ学校にお越しの上、鑑賞していただければと思います。

最後に、上演後の振り返りの中の受講生達のコメントの一部を紹介します。

・ 日を経るにしたがって、より楽しくなっていき、地域のことについて深く考えられるようになった。

・ 今回の講座で自分の中で成長したと思える点がたくさん増えました。演劇はもちろんのこと、津山の知識など様々な経験を積むことができました。

・ 教育が学びたくて参加して、違う戦略になったんですが、それはそれで面白く、たぶんこのまま生きていても触れることがなかった分野を知ることができ、とても視野が広がりました。

・ 本当は何となく参加したのだけれど、地域の現状を知ることができ、普段関わることのない人と一緒にすること、価値観が違ふことで、新しいことをすることができたし、コミュニケーション能力がつきました。

・ 将来、集まったらこのメンバーで地域を盛り上げていけたら最高だと思った。



↓ 中間発表1



↓ 中間発表2



↓ 創作グループBの発表



↓ 「振り返り」での一言スピー



平成29年8月31日